



第57回 全国知的障害福祉 関係職員研究大会 〔鹿児島大会〕

開催要綱

「未来へ!!

福祉の力と共生社会」

日時

令和元年

10/22^火・23^水・24^木

会場

(全体会会場) 鹿児島市民文化ホール

(分科会会場) 鹿児島サンロイヤルホテル
城山ホテル鹿児島

主催

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会
九州地区知的障害者福祉協会
鹿児島県知的障害者福祉協会



第57回 全国知的障害福祉関係職員研究大会 鹿児島大会 開催要綱

大会テーマ

「未来へ!! 福祉の力と共生社会」

大会趣旨

今年の4月平成が終わり、5月から『令和』となりました。平成の31年間は、障害者福祉を取り巻く制度と社会環境が大きく変動する期間となりました。超少子高齢社会の到来・地域社会における人間関係の希薄化・労働人口の減少など地域の抱える課題も顕在化してきました。

これらの課題に対応すべく国は、共生社会の実現に向けて、「我が事・丸ごと」の地域づくり・包括的な支援体制の整備に向けた取り組みを始めました。これは、支援を必要とする利用者の多様で複合的な地域生活課題に対して、地域のあらゆる資源を活用しながら、利用者の望む暮らしの実現に向けた新たな支援体制を構築していくという事です。

私たちは、長きにわたり地域とともに歩んできました。今後、地域の為に何ができるのか？利用者の可能性を活かすとともに事業所が地域にどのような役割を果たす事ができるのか？子どもたちの豊かな未来を約束できるのか？だれもが「このまちに生まれてきてよかった」と思える共生社会に向けて福祉の力はどのように働きかける事ができるのか、新しい時代の福祉を考える一助とする研修会を開催します。

主催

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会
九州地区知的障害者福祉協会
鹿児島県知的障害者福祉協会

後援（予定）

厚生労働省、文部科学省、鹿児島県、鹿児島市、（社福）全国社会福祉協議会、全国手をつなぐ育成会連合会、（一社）全国知的障害者施設家族会連合会、（社福）全国重症心身障害児（者）を守る会、（公社）全国脊髄損傷者連合会、（一社）全国肢体不自由児者父母の会連合会、（一社）全国児童発達支援協議会、（公社）日本重症心身障害福祉協会、（公社）日本精神科病院協会、全国社会就労センター協議会、（特非）日本相談支援専門員協会、（特非）日本障害者協議会、（特非）全国地域生活支援ネットワーク、障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会、（公社）日本発達障害連盟、（一社）日本発達障害ネットワーク、（一社）日本自閉症協会、（社福）鹿児島県社会福祉協議会、（社福）鹿児島県共同募金会、（社福）鹿児島県手をつなぐ育成会、鹿児島県知的障害者施設家族会連合会、（特非）鹿児島県自閉症協会、（社福）鹿児島市社会福祉協議会、（社福）鹿児島市手をつなぐ育成会、（公社）鹿児島県社会福祉士会

開催概要

会 期	令和元年10月22日(火)～24日(木)
会 場	<ul style="list-style-type: none">・全 体 会 鹿児島市民文化ホール 第1ホール 〒890-0062 鹿児島市与次郎2丁目3-1 TEL099-257-8111・分 科 会 城山ホテル鹿児島（第1～第6分科会） 〒890-8586 鹿児島市新照院町41-1 TEL099-224-2211 鹿児島サンロイヤルホテル（第7～第10分科会） 〒890-8581 鹿児島市与次郎1丁目8-10 TEL099-253-2020・情報交換会 鹿児島サンロイヤルホテル 2階 太陽の間
参加対象者	<ul style="list-style-type: none">(1) 知的障害関係施設職員及び教育関係者、関係行政職員等(2) 全国手をつなぐ育成会連合会会員、 全国知的障害者施設家族会連合会会員(3) 一般の方々に福祉に関心のある方
参加人数	約1,800名(予定)
大会参加費	17,000円(2日目の弁当代含む)
情報交換会	参加費：8,000円(先着750名) 会 場：鹿児島サンロイヤルホテル 2階 太陽の間
宿 泊	鹿児島市内(28頁参照)

大会日程

第1日目

12:00～13:00
13:00～13:45
13:45～14:45
14:45～15:15
15:15～15:45
15:55～17:25

18:30～20:30

令和元年10月22日(火曜日) 全体会

開場・受付

開会式・表彰式

行政説明 (厚生労働省)

休憩

LIVE -音パフォーマンス-「otto&orabu」

トークセッション

テーマ：「新たな価値を創る」～未完成な創造性とは～

しょうぶ学園 統括施設長 福森 伸氏

東洋大学 社会学部社会福祉学科長 教授 高山 直樹氏

沖縄大学 地域研究所長 島村 聡氏

情報交換会

(アトラクション：鹿児島実業高等学校男子新体操部)

第2日目

9:00～ 9:30
9:30～12:00

12:00～13:00
13:00～16:30

令和元年10月23日(水曜日) 分科会

開場・受付

分科会 (10分科会)

城山ホテル鹿児島 (第1～第6分科会)

鹿児島サンロイヤルホテル (第7～第10分科会)

休憩 (昼食)

分科会

第3日目

8:30～ 9:30
9:30～11:30

11:30～12:00

令和元年10月24日(木曜日) 全体会

開場・受付

特別講演

演題：「ふるさとを元気にするために」

～福祉の力が果たす役割～

講師：studio-L代表

コミュニティーデザイナー 山崎 亮氏

閉会式

第1日目

10月22日(火)

全体会

12:00~13:00

開場・受付

13:00~13:45

開会式・表彰式

13:45~14:45

行政説明 (厚生労働省)

14:45~15:15

休憩

15:15~15:45

LIVE -音パフォーマンス-「otto&orabu」

15:55~17:25

トークセッション

テーマ：「新たな価値を創る」～未完成な創造性とは～

しょうぶ学園 統括施設長 福森 伸氏

東洋大学 社会学部社会福祉学科長 教授 高山 直樹氏

沖縄大学 地域研究所長 島村 聡氏

18:30~20:30

情報交換会

(アトラクション：鹿児島実業高等学校男子新体操部)

LIVE -音パフォーマンス-「otto&orabu」

(15:15~15:45)



鹿児島市にある障がい者支援施設「しょうぶ学園」の主宰するotto(おっと)は、「心地よい不揃いの音」という独自の表現スタイルをコンセプトに、2001年に民族楽器を中心に結成したパーカッションバンドです。足並みがそろわない頑強にずれる音、パワーのある音、不規則な音が自由に、そして純粋に楽しくセッションすることによって、心地よい不揃いの音が生まれます。またヴォイスグループorabu(おらぶ=鹿児島弁で「叫ぶ」の意)は、叫びのコーラス。ottoのリズムとorabuのヴォイスが絶妙のコラボレーション空間を創造します。

音楽は、即興的なイメージの組み合わせによる新しい音の発見と偶然性を大切にしながら、一貫してオリジナル曲で構成しています。見て楽しむ、聴いて楽しむ、ジャンルを超えて新しい音の世界を模索しています。地元鹿児島で毎年開催されるフェス「GOOD NEIGHBORS JAMBOREE」には第1回からレギュラー出演。高木正勝、UA、坂田明、おおたか静流他、様々なミュージシャンとセッションを行うなど、日本各地で演奏活動を続けています。2014年には初のCD音源「encounter」をリリース。

トークセッション 「新たな価値を創る」～未完成な創造性とは～

(15:55～17:25)

しょうぶ学園 統括施設長 福森 伸氏

1959年 鹿児島県生まれ

知的障がい者支援施設 しょうぶ学園統括施設長

1983年より「しょうぶ学園」に勤務。木材工芸デザインを独学し、「工房しょうぶ」を設立。特に2000年頃より縫うことにこだわってプロデュースした「nui project」は、国内外で作品が高く評価されている。また、音パフォーマンス「otto&orabu」・家具プロジェクト・食空間コーディネートなど「衣食住+コミュニケーション」をコンセプトに、工芸・芸術・音楽等、新しい「SHOBU STYLE」として、知的障がいをもつ人のさまざまな表現活動を通じて多岐にわたる社会とのコミュニケーション活動をプロデュースしている。



東洋大学 社会学部社会福祉学科長 教授 高山 直樹氏

1960年 東京都生まれ

専門分野は、ソーシャルワーク、権利擁護システム、障がい・高齢者福祉

特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマン理事兼成年後見支援センター統括責任者、一般社団法人市民介護相談員は理事兼スーパーバイザー、文京区地域自立支援協議会会長、文京区福祉推進協議会副委員長、練馬区障害福祉人材育成・研修センター運営委員長など。

各市民団体、障がい児者施設、高齢者施設、児童養護施設、福祉事務所等のスーパーバイザーおよび「高山塾」として、障がい者施設職員の研修を各地で開催している。

2008年より、市民提案型協働事業として神奈川県茅ヶ崎市との協働により、成年後見支援センターを立ち上げる。地域包括支援センター、障害者相談支援事業所および地域の社会資源との連携のなかで、地域における権利擁護システム、特に市民による権利擁護システム構築の実証的研究を重ねている。



沖縄大学 地域研究所長 島村 聡氏

1960年 兵庫県生まれ

沖縄大学人文学部福祉文化学科准教授

役所時代は、リフト付きバスの運行、医療ケアの必要な重度障がい者のデイサービス、24時間対応のホームヘルプサービス、理学療法士による住宅改造費助成、公園の管理棟を障がい者作業所として活用、市営住宅でグループホーム、市民によるジョブサポーター、債務保証会社による居住サポート事業、ホームレスによる遺骨収集といった制度にない事業を立ち上げる。2003年におきなわふくしオンブズマンを立ち上げ。2013年より現職。



情報交換会 (アトラクション：鹿児島実業高等学校男子新体操部)



鹿児島実業高等学校新体操部は昭和58年に創部されました。

現在までに、男子は、個人の部で全国大会において総合優勝を4回達成し、団体の部でも全国大会で4位入賞や6位入賞、九州大会優勝を成し遂げています。今年度は団体競技でのインターハイ出場を果たしました。また、女子は県高校総体の団体種目で13回優勝、個人種目では4回連続10回目の優勝を果たし、団体競技、

個人競技の両方でインターハイへ出場いたしました。男子の団体演技はコミカルな動きやアニメソングやアイドルソングなどを取り入れ、他にはない演技となっています。その特徴的な演技が話題となり、ユーチューブでの配信や各種テレビ番組、鹿児島市の観光PR動画等への出演もしています。それでは、本校独特の演技を楽しんでご覧ください。

第2日目
10月23日(水)

分科会

会場	分科会	テーマ	頁
城山ホテル鹿児島	第1分科会	「 育ちをささえる 」 ～こどもの豊かな育ちをささえる支援者になろう～	7
	第2分科会	「 老いに寄り添う 」 ～高齢期になっても なお「本人の望む暮らし」の実現を～	8
	第3分科会	「 自分らしく暮らす 」 ～本人の想いを中心とした共生社会を実現する～	9
	第4分科会	「 障がいのある人の居場所をつくる 」 ～生きがい・やりがい・支えあいをつくるために！～	10
	第5分科会	「 地域で働く 」 ～支えられる側から支える側へ～	11
	第6分科会	「 思いをかたちに 」 ～豊かな生活をおくるということ～	12
鹿児島サンロイヤルホテル	第7分科会	「 『その人らしく生きる』を支える 」 ～虐待防止と権利擁護（してはならない支援からすべき支援への展開）～	13
	第8分科会	「 知恵と技法を学ぶ 」 ～「人」が持つ潜在能力と多様性の活性化～	14
	第9分科会	「 現場の変化を知ろう 」 ～多様な経営体参入の現場に見るニーズの最前線～	15
	第10分科会	「 社会の動きを知ろう 」 ～持続可能な社会と福祉にできることを考える～	16

※分科会のお申込みは先着順です。必ずお申込書には、第2希望までご記入下さい。

「育ちをささえる」

～こどもの豊かな育ちをささえる支援者になろう～

私たちが、こどもの豊かな育ちを保障するためには「発達支援」「家族支援」「地域支援」「移行支援」「生活支援」を高いレベルで行う事が求められます。この分科会では、知的障害や発達障害の基礎知識を身につけるセミナー編、日々の実践のヒントになるような学びを得られる実践編に分け、こどもたちの豊かな育ちをささえる支援者となれるようおおいに学びあいましょう。

9:30～10:00	基調講演「こどもの支援の質を高めるために職員をどのように育てるか」 講師：品川区立品川児童学園 施設長 光真坊 浩史氏（東京都）
10:00～11:00	講演1 「発達支援と医療」 講師：鹿児島県こども総合療育センター 所長・医師 外岡 資朗氏（鹿児島県）
11:00～11:15	休憩
11:15～12:15	講演2 「発達障害当事者から見た世界を想像する」 講師：鹿児島大学教育学部 教授 肥後 祥治氏（鹿児島県）
12:15～13:15	昼食・休憩
13:15～14:15	講演3 「発達の全体像をおさえる」 講師：（社福）からしだね うめだ・あけぼの学園 副園長 酒井 康年氏（東京都）
14:15～14:30	休憩
14:30～16:30	シンポジウム「こどもの豊かな育ちをささえる支援者になろう！！」 <<コーディネーター>> 品川区立品川児童学園 施設長 光真坊 浩史氏（東京都） <<シンポジスト>> 1 「児童発達支援センターにおける支援者養成について」 （社福）からしだね うめだ・あけぼの学園 副園長 酒井 康年氏（東京都） 2 「大分県での保育コーディネーター養成の取り組みについて」 （社福）別府発達医療センター児童発達支援センターひばり園 園長 越智 芳子氏（大分県） 3 「障害児入所施設における支援者養成について」 （社福）落穂会 あさひが丘学園 児童部支援課長 木場 明典氏（鹿児島県）

「老いに寄り添う」

～高齢期になってもなお「本人の望む暮らし」の実現を～

「高齢になること」は、誰もが迎えるものであり、身体機能の低下や認知機能の低下、また様々な疾病等への対応が課題になっています。介護保険との連携も言われていますが、高齢知的障害者一人ひとりが、老いと向き合いながらも、日々の暮らしを自分らしく心穏やかに過ごすためには、どのような仕組みが必要なのか。私たち支援者はどのように寄り添い、支援していったらいいのかを考えます。

9:30～10:40	基調講演1 「高齢化に伴う知的障害のある人たちの生活上の課題と支援のあり方」 講師：武庫川女子大学 教授 松端 克文氏（兵庫県）
10:40～10:50	休憩
10:50～12:00	基調講演2 「高齢知的障害者支援の実際」 講師：独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 総務企画局事業企画部 部長 古川 慎治氏（群馬県）
12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～16:00 (休憩15分含)	シンポジウム「高齢期になってもなお、本人の望む暮らしの実現を」 〈コーディネーター〉 武庫川女子大学 教授 松端 克文氏（兵庫県） 〈アドバイザー〉 独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 総務企画局事業企画部 部長 古川 慎治氏（群馬県） 1 「高齢化と向き合っていくために大切な事」 （社福）陽気会 ひだまり園 施設長 大西 博之氏（兵庫県） 2 「この街で共に生きる」 （社福）敬天会 生活支援センターさちかぜ 相談支援専門員 萬歳 瑠奈氏（鹿児島県） 3 「ここで暮らしたいと思える施設づくり」 （社福）更生会 榎山学園 サービス管理責任者 大山口 由貴氏（鹿児島県）
16:00～16:30	まとめ・総括 武庫川女子大学 教授 松端 克文氏（兵庫県） 独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 総務企画局事業企画部 部長 古川 慎治氏（群馬県）

「自分らしく暮らす」

～本人の想いを中心とした共生社会を実現する～

近年「地域共生社会」・「共生型サービス」・「地域包括ケアシステム」・「地域生活支援拠点」と言った言葉が頻出していますが、支援に携わる我々がそれをどのように捉えるのか、本人のエンパワメントに繋げる具体的方法とは何かについて学びましょう。

9:30～11:20 (講演中休憩有)	基調講演「本人の想いを中心とした共生社会」 講師：沖縄大学 地域研究所長 島村 聡氏（沖縄県）
11:20～12:00	実践報告1 「本人の想いを中心とした共生社会モデル」 発表者：(社福) ゆうゆう 理事長 大原 裕介氏（北海道）
12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～13:40	実践報告2 「グループホームで暮らす本人の楽しむ共生社会」 発表者：(社福) 菊愛会 地域生活支援事業所イズム・あおぞら 管理者 緒方 隆氏（熊本県）
13:40～14:20	実践報告3 「法人連携による地域生活支援拠点等を活用した共生社会の輪」 発表者：(社福) ゆうかり 理事長 水流 源彦氏（鹿児島県）
14:20～14:35	休憩
14:35～16:30	シンポジウム「本人の想いを中心とした共生社会」 ～すべての障がい者が地域で自信を持って暮らす～ ≪コーディネーター≫ 沖縄大学 地域研究所長 島村 聡氏（沖縄県） ≪シンポジスト≫ (社福) ゆうゆう 理事長 大原 裕介氏（北海道） (社福) 菊愛会 地域生活支援事業所イズム・あおぞら 管理者 緒方 隆氏（熊本県） (社福) ゆうかり 理事長 水流 源彦氏（鹿児島県） 当事者2名（予定）

「障がいのある人の居場所をつくる」

～生きがい・やりがい・支えあいをつくるために！～

障がいのある人の芸術・スポーツ・音楽などの活動が注目されており、それらへの参加・参画が、意思決定を促し、生活の質を向上させ、地域でのその人らしい生活の実現につながるものとなります。そのことは地域の中で、障がいのある人の「居場所」をいかにつくり、つなげ、支え、本人主体の生活を実現していくこととなります。本分科会では、日常生活の中にある「居場所」に着目し、障がいのある人の個性を活かした先駆的な「つくる」活動、実践を通して、共生社会を視野に入れた支援者としての立ち位置や方向性を確認していきます。

9:30～10:30	基調講演「自分らしく生きる場所とは」 講師：東洋大学社会学部社会福祉学科長 教授 高山 直樹氏（神奈川県）
10:30～10:45	休憩
10:45～12:15	基調報告「すべては幸せを感じるために～やまなみ物語～」 講師：（社福）やまなみ会 やまなみ工房 施設長 山下 完和氏（滋賀県）
12:15～13:15	昼食・休憩
13:15～16:00 (途中休憩を含む)	シンポジウム「障がいのある人の居場所とは何か」 <<コーディネーター>> 東洋大学社会学部社会福祉学科長 教授 高山 直樹氏（神奈川県） <<アドバイザー>> （社福）やまなみ会 やまなみ工房 施設長 山下 完和氏（滋賀県） <<シンポジスト>> 1 「花の木農場の目指す地域共生社会～ノウフクで居場所と出番をつくる～」 （社福）白鳩会 総務 天野 雄一郎氏（鹿児島県） 2 「音楽の演奏による社会参加は福祉の普及につながる」 （社福）JOY 明日への息吹 障害福祉サービス事業所 JOY 倶楽部 施設長 緒方 克也氏（福岡県） 3 「スペシャルオリンピックス～共生社会の懸け橋となる知的障害者スポーツ活動～」 （公財）スペシャルオリンピックス日本 理事・業務推進部長 渡邊 浩美氏（東京都）
16:00～16:30	まとめ・総括 東洋大学社会学部社会福祉学科長 教授 高山 直樹氏（神奈川県） （社福）やまなみ会 やまなみ工房 施設長 山下 完和氏（滋賀県）

「地域で働く」

～支えられる側から支える側へ～

法定雇用率が引き上げられるなど、精神障害者が障害者雇用義務の対象に加わることで、一般労働市場における障害者雇用への注目はますます高まっていますが、法定雇用率達成企業の割合は5割程度に留まっているのが現状です。

今後、こうした状況をふまえながら「支えられる側から支える側へ」をキーワードに誰もが社会の一員としての役割をもち、自分らしく活躍することができる「共生社会の実現」に向けて、これからの就労支援の在り方を共に考えたいと思います。

9:30～10:30	基調講演 「支えられる側から支える側へ～就労支援のフレームを変えてみる～」 講師：埼玉県立大学 保健医療福祉学部社会福祉子ども学科 教授 朝日 雅也 氏（埼玉県）
10:30～10:40	休憩
10:40～11:30	体験者発表1 「これまでの私、これからの私」 発表者：京セラ株式会社鹿児島準人工場 社員 今村 栄一郎 氏（鹿児島県） 体験者発表2 「京セラ準人工場における障害者雇用の取り組みについて」 発表者：京セラ株式会社鹿児島準人工場 総務課責任者 木村 陽平 氏（鹿児島県）
11:30～12:30	昼食・休憩
12:30～13:30	講演「障害者就業・生活支援センター職員の役割」 講師：鹿児島国際大学大学院 教授 蓑毛 良助 氏（鹿児島県）
13:30～13:40	休憩
13:40～15:10	実践報告1 「相手に花を持ってもらえる支援～一人ひとりに出番がある！～」 （社福）愛育会 指定障害福祉サービス事業所 なごみ 就労支援課長 林 弥生 氏（徳島県） 実践報告2 「知的障害者が働くことについて」 鹿児島障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 村上 寿一 氏（鹿児島県） 実践報告3 「戦力となり、就労定着する障害者雇用のポイント」 ～ゴシキワークの就労支援より～ （一社）Re.goshiki ゴシキワーク 代表理事 大瀬 茂生 氏（鹿児島県）
15:10～15:20	休憩
15:20～16:30	パネルディスカッション『支えられる側から支える側へ』～これからの就労支援～ ≪コーディネーター≫ 埼玉県立大学 教授 朝日 雅也 氏（埼玉県） ≪アドバイザー≫ 鹿児島国際大学大学院 教授 蓑毛 良助 氏（鹿児島県） ≪パネリスト≫ 1 林 弥生 氏 2 村上 寿一 氏 3 大瀬 茂生 氏

「思いをかたちに」

～豊かな生活をおくるということ～

福祉サービスを利用するにあたってサービス等利用計画が作成されていますが、相談支援事業所の不足等から、福祉サービスの調整・仲介を中心としたケアマネジメントにならざるを得ない状況があります。そのような中、厚生労働省からは、相談支援専門員には、ソーシャルワークの担い手として期待されていることが示され、法定研修でもソーシャルワークを意識した新カリキュラムが始まる予定です。この分科会では、障がいのある方が「豊かな生活をおくるということ」に焦点を当て、相談支援専門員の役割、技術について考える場とします。

- 9:30～10:25 **行政説明「相談支援のこれから」(仮)**
 講師：厚生労働省社会・援護局
 障害保健福祉部 障害福祉課地域生活支援推進室
 相談支援専門官 藤川 雄一氏(東京都)
- 10:25～10:40 **休憩**
- 10:40～12:00 **基調講演1 「相談支援専門員が創る豊かな生活」**
 講師：(特非) かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク相談役
 日本知的障害者福祉協会相談支援部会副部長 富岡 貴生氏(神奈川県)
- 12:00～13:00 **昼食・休憩**
- 13:00～14:00 **基調講演2 「九州地区の相談支援事業と人材育成」**
 講師：日本相談支援専門員協会 九州ブロック代表理事 山下 浩司氏(長崎県)
- 14:00～14:15 **休憩**
- 14:15～16:30 **シンポジウム テーマ「豊かな生活をおくるということ」**
 <<コーディネーター>>
 (特非) かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク相談役
 日本知的障害者福祉協会相談支援部会副部長 富岡 貴生氏(神奈川県)
 <<アドバイザー>>
 厚生労働省社会・援護局
 障害保健福祉部 障害福祉課地域生活支援推進室
 相談支援専門官 藤川 雄一氏(東京都)
 <<シンポジスト>>
 1 「基幹センターの役割」
 長野県上小圏域障害者総合支援センター SHAKE 所長 橋詰 正氏(長野県)
 (上小圏域基幹相談支援センター)
 2 「地域移行支援から見えてきたもの」
 地域生活支援事業所アシスト
 施設長兼相談支援専門員 樋之口 亮氏(鹿児島県)
 3 「(自立支援)協議会が拓く豊かな生活のステージ」
 (社福)三矢会 障害者相談支援事業所リガーレ所長
 広島市安佐南区障害者基幹相談支援センターリガーレ所長(市委託)
 一丸 善樹氏(広島県)

「『その人らしく生きる』を支える」

～虐待防止と権利擁護（してはならない支援からすべき支援への展開）～

権利擁護というと、権利侵害・虐待の防止という「してはならないこと」をイメージしがちです。それらの防止のための知識や手法も重要ですが、「権利擁護」にはより積極的な意味合いがあります。近時重視される意思決定支援も権利擁護の視点が不可欠の要素です。

虐待など「してはならないこと」の防止と、利用者の権利を擁護する「本質的支援」について議論を深めます。

9:30～10:30 **基調講演1 「地域における権利擁護の取り組み」**
講師：総社市社会福祉協議会 事務局次長 中井 俊雄 氏（岡山県）

10:40～12:00 **基調講演2**
「権利擁護の視点に立った支援とは
～支援上のキーワードの相互関係を踏まえて～
講師：岡山大学大学院 法務研究科 教授 西田 和弘 氏（岡山県）

12:00～13:00 **昼食・休憩**

13:00～16:30 **シンポジウム テーマ「権利擁護の視点に立った支援とは」**
(途中休憩を含む) **〈コーディネーター〉**
岡山大学大学院 法務研究科 教授 西田 和弘 氏（岡山県）

〈助言者〉
総社市社会福祉協議会 事務局次長 中井 俊雄 氏（岡山県）

- 〈シンポジスト〉**
- 1 「障害者支援施設における虐待防止の取り組み」
（社福）信成会 ふるさとの森ひろば2 児童指導員 古園 真一 氏（鹿児島県）
 - 2 「リスクマネジメントの視点から権利擁護を考える」
（社福）永寿福社会 障がい事業担当部長 永寿ホームあおぎり（共同生活援助）
管理者 油谷 佳典 氏（大阪府）
 - 3 「第三者評価の視点から権利擁護を考える」
（社福）南恵会 徳州園 理事長 吉留 康洋 氏（鹿児島県）
 - 4 「意思決定支援の実践上の課題を考える」
（社福）同愛会 障害者支援施設 光輝舎 施設長 菊地 月香 氏（栃木県）

「知恵と技法を学ぶ」

～「人」が持つ潜在能力と多様性の活性化～

障害福祉サービスだけに限らず『変革時代』において既存システムに頼るだけでは、この先の時代を切り拓く事は困難とされています。そのため、既成概念にとらわれない創造的なスタイルが求められます。価値観の大きく異なる相手とも積極的な信頼関係を結ぶことはもちろん、多くの「人」の見方・考え方を効果的に活かすことで、互いのポテンシャルを活かすことが可能となり、利用者のエンパワメントに効果が期待できます。本分科会では、現在注目されている会議スタイル『ワールドカフェ』と非言語コミュニケーション技法を学べる『アドラー心理学のコーチング』を通じて一歩先のコミュニケーションスキルを学び、創造的なチームビルディング力と支援技法を習得していただきます。

9:30～12:30
(休憩15分あり)

グループワーク「ワールドカフェ」

～ブラッシュアップ！創造的なチームビルディングが支援の質を上げる～

ワールドカフェとは、その名の通り、まるで「カフェ」にいるような雰囲気に参加者同士が、リラックスし、自由に対話できる会議スタイルです。情報量が増え、活発な意見交換が求められる際に非常に効果的です。

＜講師＞

(社福)永美福祉会 しらさぎケアホーム
サービス管理責任者 野呂 大悟 氏 (愛知県)

12:30～13:30

休憩

13:30～16:30
(休憩15分あり)

演習「アドラー心理学から学ぶコーチング技法」

～ノンバーバル(非言語)コミュニケーションの効果を生かすノウハウとは～

「ロールプレイング形式で体感できるコーチングプログラム」ことば以外の情報をもとに相手の心情を読み取るコミュニケーションは、利用者のエンパワメントを実践する際に大変重要なスキルと言えます。

＜講師＞

医療法人岩崎胃腸科 医師 岩崎 秀一 氏 (鹿児島県)

「現場の変化を知ろう」

～多様な経営体参入の現場に見るニーズの最前線～

近年、障害福祉に係る事業に企業やNPOなどの参入が増えています。それらの中には、障害福祉に限らない様々な人や組織にネットワークを持ち、新しい分野に取り組む経営体があります。

そして新しい視野・視点をもって取り組むチャレンジが、これまでとは違った変化を現場に生み出しています。今その現場で起こっている変化を知り、これからの施設での活動に対する思索の場とします。

9:30～9:40	概要説明「第9分科会の狙い」 講師：(特非) HUB's 理事長 林 正剛氏(滋賀県)
9:40～11:00	基調講演「脆弱性と境界をこえる様々な取り組み」 講師：鹿児島国際大学経済学部 教授 馬頭 忠治氏(鹿児島県)
11:00～12:00	実践報告1 「地域課題から発想する持続可能な事業化」 講師：(特非) 縁活 (一社) 農福連携自然栽培パーティー全国協議会 常務理事 副理事長 杉田 健一氏(滋賀県)
12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～13:50	実践報告2 「地域連携で生まれる商品と人々の役割」 講師：(社福) 青葉仁会 奈良西部事業統括責任者 井西 正義氏(奈良県)
13:50～14:40	実践報告3 「超福祉で連携する地域ブランディング」 講師：(株) ランドマーク 取締役 アートディレクター 川田 勝也氏(東京都)
14:40～15:30	実践報告4 「支えるではなく支え合う」 講師：(一社) 障がい者・障がい児自立支援センター(愛称：ミラパス) 代表理事 奥 大輔氏(鹿児島県)
15:45～16:30	総括 鹿児島国際大学 馬頭 忠治氏(鹿児島県) & (特非) HUB's 林 正剛氏(滋賀県)

「社会の動きを知ろう」

～持続可能な社会と福祉にできることを考える～

国際ソーシャルワーカー連盟総会（2014年メルボルン）で採択された「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」の中に次の一文があります。「ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々や様々な構造に働きかける」。つまりマクロ規模での社会変革の必要性を強調しつつ、その社会的結束のために「福祉が力になろう」と述べられています。

一方、深刻な貧困問題や気候変動、災害の頻発など、社会がこのままでは持続できないとして、国連が2030年迄の持続可能な開発目標「SDGs」（エスディージーズ）を提唱しています。実はこの中身には障害福祉の理念に深く関係するものも含まれています。企業や行政も取り組み始めたSDGsへの理解を深め、施設での活動そのものがSDGsを軸に多様な主体と連携し、その達成に向かう可能性を探ります。

9:30～12:00	<p>グループワーク 1 「2030 SDGs カードゲーム」 講師：(社福)海邦福祉会 高志保園 施設長 知念 隆生 氏 (沖縄県)</p>
12:00～13:00	<p>昼食・休憩</p>
13:00～14:30	<p>講演 「SDGs を協働に向けた共通言語にするために」 講師：(一社)日本経済団体連合会 SDGs 本部 統括主幹 長澤 恵美子 氏 (東京都)</p>
14:40～16:30	<p>グループワーク 2 「SDGs と自分たちの接点を考えよう」 講師：(特非)日本NPOセンター 事務局長 吉田 建治 氏 (東京都)</p>

第3日目

10月24日(木)

全体会

8:30～ 9:30

開場・受付

9:30～11:30

特別講演

演題：「ふるさとを元気にするために」

～福祉の力が果たす役割～

講師：studio-L代表

コミュニティーデザイナー 山崎 亮氏

11:30～12:00

閉会式

講師プロフィール



山崎亮（やまざきりょう）

studio-L代表。コミュニティーデザイナー。社会福祉士。

1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士（工学）。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティーデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。

著書に『ふるさとを元気にする仕事（ちくまプリマー新書）』、『コミュニティーデザインの源流（太田出版）』、『縮充する日本（PHP新書）』、『地域ごはん日記（パイインターナショナル）』などがある。